

# 漢語の流行

## —「忖度」—

### How to use the Ancient Chinese “Son-taku” in Modern Japanese

山内 啓介

Keisuke Yamauchi

#### Abstract

“Son-taku” or “忖度” is a Chinese word that became popular in Japan in 2017. This article is the result of a search for examples of the word in Chinese classics and an analysis of its use. Mencius’ use of the word appears to be a quotation from the Shijing. After that, the word was imported along with the Cheng-Zhu School into Japan where it became a word expressing the organization of society in which not only those of high status but also those of low status are recognized. In the modern era, the meaning of “忖度” changed to “being controlled by two masters.” In the 1990s, just prior to the Heisei era the usage changed to “son-taku suru” and through discussion in the media, the word became more fashionable. This article seeks to clarify the circumstances in which the word “忖度” is used in its modern political meaning, which is a social problem.

#### はじめに

「忖度」「忖度する」という漢語が流行した。2017年から2018年に日本の政治に用いた語である。日本のメディアを賑わして、話題<sup>1</sup>になった。2018年のあと、いまもなお、メディアに用いる。用法が漢語の「忖度」とは違った。日本語の「忖度」「忖度する」については、意味解釈する語用の議論になる。メディアは、漢語「忖度」をどう見たか、日本での用法、漢語の流行現象の例について述べてみたい。

本稿は政治のテーマを扱うのではない<sup>2</sup>。日本語の漢語、その言語現象をとらえようとする。ネットサイトで意見、議論を読む時代であるから、さまざまに視点がある。その意見を追うということには、サイトを開くといつでも誰でも見ることができることから、時空の速度と拡散にあって、かえって難しく感じられることがある。ウェブサイトのインフォメーションに、その事実の手順を明らかにすることが必要な時代である。

漢語の検索は、いまその一つに、中国古典の文献である漢籍漢文をウェブサイトで調べてみることを述べる。インターネットの情報処理であるから、その範囲においてもとらえようとする。

る。アジアの共同体創生に共有する漢字の言葉を確認するためには、すでに、わたしの経験で思い起こせば、時代による数多の漢籍検索は2000年代になってできるようになった。

いまから20年近く前であったが、ウェブサイトを利用しておどろいた。漢文の原典を調べることが可能だとわかった。中国サイトで古典漢文を、その文献が検索できる。中国叢書をネットサイトで閲覧できるということが始まり、そのCTP Chinese Text Project 中国哲学書電子化計画<sup>3</sup>によって膨大な関係資料に就くことになる。ここに、キーワード検索とコンコーダンスを試みることになる。

## 1 付度とは

「付度」の付字は心を方寸と見て、心の臓を指す。字形にも小さな形をとらえて、それを「付度」というのは、漢籍文献の初出にその行為者がとらえられる。つまり、推し量るのは王であり、その対象にあるものをして王の行為ととらえたことに始まる。王が臣下のところを測る。古代中国の王による行為であるから、だれもかれもが「付度」となるわけではない。

日本の現代社会の流行語となった「付度」という語を聞いて、マスコミをにぎわせる言い方は、漢籍では用法が異なるようである。それをウェブサイトの議論で調べることになる。

日本語にとらえている「付度」「付度する」は、現代の流行では次のようである。上下関係というと、部下が上司の心について「付度する」ことがあり、政治家に対する役人の「付度」となる。本来の用法では、このように上司を付度するということはありません。しかし、日本語の解釈では部下の思いにあることを、部下から上司を「付度する」こと、その内容になるから、語用で見ると本来の漢語とは異なった意味解釈になっている。それは、上下の逆の行為でとらえていることがわかる。

これは、なぜだろうかと考えて儒学、儒教の政に及び、中国語での意味をとらえると、結論は、中国古代の政治にある教えには、王が配下にする「付度」の用法であるということがわかる。

いわば上司たるものが、何かしら思いを抱く部下に、その何かしらの思いに自らの權威で行って治めなければならない、という、「付度」である。詩経のなかでうたわれた詞に始まるが、章句の出典を儒学に取り入れて、王の行いと説明していることがわかった。

中国語では、当然、漢字にあらわした用法があり、現代ではその文字の意味に用いている。一方で、日本語では漢文漢籍をとりいれたから、国語学の分野に示す語種にある漢語の分類で見て、これは日中同形語となる。対照すると重要な意味関係となり、「同形詞」の研究<sup>4</sup>が詳しいので同形語の扱いで参考になる。

## 2 日本の国語辞書

まず、はじめに、日本国語辞書を見る。ウェブサイトで辞書を引く時代になった。インターネットは人々の常識を変えていく。そのコトバンク<sup>5</sup>のページから、中辞典サイズの辞書をそ

のまま引用してみる。まず、大辞林 第三版に、

「付」も「度」もはかる意 他人の気持ちをおしはかること。推察。  
と見える。

次に、デジタル大辞泉に、

他人の心をおしはかること。

また、おしはかって相手に配慮すること。

とあって、「付度」の日本語としての語釈が、それぞれ、同様に見える。

さらに、大部の日本国語辞書の検索ができて、ウェブサイトで見ることができる。

日本国語大辞典の項目<sup>6</sup>では、次のようである。

他人の心中やその考えなどを推しはかること。推量。推測。推察。

以上を見れば、日本語辞書では、他人の心をおしはかること、他人の気持ちをおしはかること、他人の心中やその考えなどを推し量ることという説明である。「付度」による上下の関係は説明がない。これで、日本語の解説はつきる。

その用例について、さきの日本国語大辞典から見ることにする。時代による例としてみると、5例を並べるうちに、時代の古い用例は、平安朝、菅家の詩の例として挙げる。10世紀初め、のちには学問の神様とあがめられた菅原道真の漢詩集、菅家後集に、次を詠む例が見える。

菅家後集〔903頃〕叙意一百韻「春壘由造化付度委陶甄」

引用例は、右大臣の菅原道真が左遷されて、無念の告白の詩と解釈されている。

「生涯無定地」、読み下しは、「生涯定（やす）き地（ところ）なし」で始まる詩の中の一句を読み下すと、次のようである。

春壘（しょうせい）は造化（ぞうか）に由（よ）る

付度は陶甄（とうけん）に委（ゆだ）ぬ

意は、毎日の食事は天の心のままであるように、他人の心を推し量ることは天に委ねる、となる。読みに従って、ここで「他人の心を推し量る」とする

次いで19世紀まで、日本国語大辞典の用例は、時代が下がる。11世紀から19世紀までは、その用例を挙げない。しかし、辞書の項目に「付度 じゅんど」とする例がある。

辞書項目には、「付度」を「じゅんど」と読む、次の項目がある。文明本は1474年ごろの成立のもの、次の用例を挙げる。「じゅん」は「付」の呉音とする。

文明本節用集〔室町中〕「付度 シュント 推量義也」

15世紀には、この「じゅんど」の読みがあったことがわかる。いま見ようとする「付度 そんたく」というのではなくて、異なった読みで「付度」の用法であったかもしれない。

読みは、「そんたく」の例に引き続き見る。

文章での使用例である。時事の記事、評論、小説に見える。他人の心中やその考えなどを推しはかること、という語義説明になる。時代は、近代の用法、次は日本国語大辞典の用例である。

東京新繁昌記〔1874～76〕〈服部誠一〉初・人力車「盖し人の行く所を付度（〈注〉ハカル）して而して何れの帰りと唱ふ者は」

文明論之概略〔1875〕〈福沢諭吉〉二・四「他人の心を付度す可らざるは固より論を俟たず」  
浮雲〔1887～89〕〈二葉亭四迷〉一・一一「文三の感情、思想を付度し得ないのも勿論の事では有るが」

近代絵画〔1954～58〕〈小林秀雄〉ピカソ「ピカソの真意を付度（ソントク）しようとする」と

日本国語大辞典は上記4例に続いて、その末尾の例には中国の詩経から、次を載せる。

詩経 - 小雅・巧言「他人有心、予付度之」

中国の古典作品、詩経の語句から、「付度」を漢語の出典にとらえているようである。

次には、「付度」の語について、中国の古典作品から検索し「付度」を抽出してみる。ウェブサイト検索は、その例をもって紹介する。古典籍から万卷の書を資料にする意見があるので、御批正を仰ぎたい。ウェブサイトの引用により、多大な恩恵を受けている。

### 3 中国哲学書電子化計画

中国哲学書電子化計画は、アクセスが公開された デジタルライブラリーである。複写機能、閲覧機能、および early Chinese texts の検索機能などの幅広い機能を提供している。解説に、サイトはインターネット上、最大であり、かつ的確な中国古典哲学の文献庫として認められている<sup>7</sup>と見える。用例は、インターネット検索によって、次を得る。

検索すると、「中国哲学書電子化計画 簡体字版」、そして、「諸子百家 中國哲學書電子化計劃」がヒットした。繁体字のサイト<sup>8</sup>では、

《經典文獻》相關資源 《詩經》相關討論 [西周 (公元前 1046 年 - 公元前 771 年)]

提到《詩經》的書籍 電子圖書館 資料來源 相關資源 [又名:《詩》]

とある。資料来源によって典拠を得ることができる。また、英語翻訳がある。

同様に、中国哲学書電子化計画 簡体字版<sup>9</sup>を見ることができる。

诗经 来源: 朱熹《诗集传》艺文印书馆, 民国 63 年

さきのサイトで、「付度」とその出典をキーワードとしたものがハイライトとなる。

《小雅》 《小旻之什》 《巧言》 巧言:

奕奕寝廟、	Very grand is the ancestral temple; -
君子作之。	A true sovereign made it.
秩秩大猷、	Wisely arranged are the great plans; -
聖人莫之。	Sages determined them
他人有心、	What other men have in their minds,
予付度之。	I can measure by reflection.
躍躍鳬兔、	Swiftly runs the crafty hare,

遇犬獲之。 But it is caught by the hound.

すぐにもサイトからハイパーリンクをたどって、原典を得る。そこにある、「打开字典 显示相似段落 巧言」としている、打开字典のページを展開<sup>10</sup>する。

中国哲学书电子化计划 简体字版

经典文献 -> 诗经 -> 小雅 -> 小旻之什 -> 巧言

さらに「忖度」の「忖」字を、ハイパーリンクによる字典を展開し、原典出拠、用例を見る。まず「原典出处」は、孟子の例から始まる。

《孟子·梁惠王上》:王说曰:“《诗》云:‘他人有心,予忖度之。’”

この引用の例は、続いて、

《诗经·巧言》:他人有心,予忖度之。

と示される。

次いで見ていくと、「他人有心,予忖度之」と引用する文献は、

《春秋繁露·玉杯》

《韩诗外传·卷四》

《新序·善谋》

などがある。さらに

《史记·春申君列传》

《战国策》

《四书章句集注》

《朱子语类·小弁》

と見える。

文献のどの作品に、具体的にどう用いているかを見ることができる。書名と用例の一覧である。「他人有心,予忖度之」の例句が引用され続けていることがわかる。漢籍は、その名称に漢文として日本でも知るところである。ここでの詩経の語句は、成語に扱われているようである。

また語について、字書、音義書、注釈書などを挙げているので、漢字についての音義がわかる。論語注疏に見える「恕」については、注目できる。

《说文解字·心部》:忖:度也。

《论语注疏·里仁》:恕,谓忖已度物也。

《广韵·忖》:忖:思也。

《康熙字典·十二》:又《集韵》取本切,音忖。

ここで一覧できる例、「忖度」「忖」の用例は、並びのはじめには「孟子·梁惠王上」が見えるが、典拠をさかのぼって、それを詩経にみることになる。「忖度」については、中国最古の詩篇、周詩とも呼ばれた、儒教での五経、十三経の一つ、韻文で歌謡にあったことがわかる。しかし、文献上で見るように、《孟子·梁惠王上》、《朱子语类·小弁》によって検索結果を得る。

#### 4 孟子の例

孟子に引用された詩經の語は、中国哲学書電子化計画 簡体字版にハイパーリンク「《孟子・梁惠王上》:他人有心, 予忖度之。」にあり、次を展開して、該当する箇所を見る<sup>14</sup>。

王説曰:“《詩》云:‘他人有心, 予忖度之。’

夫子之謂也。

夫我乃行之, 反而求之, 不得吾心。

夫子言之, 于我心有戚戚焉。

此心之所以合于王者, 何也?”

この箇所は「他人有心, 予忖度之」の原典の挿話になる。繁体字のサイトから引用する。

卷之一 梁惠王章句上

齊宣王問曰:「齊桓、晉文之事可得聞乎?」 孟子對曰:「仲尼之徒, 無道桓、文之事者, 是以後世無傳焉; 臣未之聞也。無以, 則王乎?」 曰:「德何如則可以王矣?」 曰:「保民而王, 莫之能禦也。」 曰:「若寡人者, 可以保民乎哉?」 曰:「可。」 曰:「何由知吾可也?」 曰:「臣聞之胡龔曰, 王坐於堂上, 有牽牛而過堂下者, 王見之, 曰:『牛何之?』對曰:『將以鬻鐘。』王曰:『舍之! 吾不忍其觥觫, 若無罪而就死地。』對曰:『然則廢鬻鐘與?』曰:『何可廢也? 以羊易之!』——不識有諸?」 曰:「有之。」 曰:「是心足以王矣。百姓皆以王爲愛也。臣固知王之不忍也。」 王曰:「然; 誠有百姓者。齊國雖褊小, 吾何愛一牛? 卽不忍其觥觫, 若無罪而就死地, 故以羊易之也。」 曰:「王無異於百姓之以王爲愛也。以小易大, 彼惡知之? 王若隱其無罪而就死地, 則牛羊何擇焉?」 王笑曰:「是誠何心哉? 我非愛其財而易之以羊也。宜乎百姓之謂我愛也。」 曰:「無傷也, 是乃仁術也, 見牛未見羊也。君子之於禽獸也, 見其生, 不忍見其死; 聞其聲, 不忍食其肉。是以君子遠庖廚也。」

王説曰:《詩》云:『他人有心, 予忖度之。』夫子之謂也。夫我乃行之, 反而求之, 不得吾心。夫子言之, 於我心有戚戚焉。此心之所以合於王者, 何也?」(下略)

引用例によれば、「忖度」の語について「他人有心, 予忖度之」の語句を表現として伝えてきていることがわかる。それを解釈する問答である。

さて、その詩經の例はさきの「奕奕寢廟、君子作之。秩秩大猷、聖人莫之。他人有心、予忖度之。躍躍龜兔、遇犬獲之。」と詠むものであった。その大意には、「大いなるみたまやは、君子が作った。秩序だった大道は、聖人が定めた。他の人に何をか、思うことの心があれば、わたしはそれを推しはかる。すばしっこくとびまわるずるがしこいうさぎは、犬に出会って捕らえられる」とみると、「忖度」は「他人有心」についてのふるまいであるから、孟子の章句をその引用と見る。

#### 5 流行現象—メディアの背景

それでは、詩經にある言葉が日本に伝えられ、それをいまでもその語の原拠とする文献を孟子の句と見ても、「忖度」は、王についての行為と解釈が行われてきて伝わっている。現代のメ



ディアが解釈をするような、日本語のことばの使い方の意味となり、違っているのは、なぜか。言葉を学ぶ日本語が漢語を入れ借用語とした、中国語を学んだ日本語を議論する。

儒学の経典を暗誦して読む日本の子供たちがいると思いをいたしたときに、人の道に王の道としての章句を学び、朗唱し学んできて、いまも変わらないことがある。論語を素読する習わしである。王に向かって、仁を説く、誰のためにあるか、忠恕は求められるか、その王道を学ぶ。その心得を学ぶのが儒学であるかと察知する。

君子の行為を学び、それが上を付度し下に付度させる社会となったいま、それが流行語になる。その現象にある「付度」を、次のように説明する。新聞コラム「田中優子の江戸から見ると」という文章に、「付度社会」<sup>12</sup>に言及する箇所がある。江戸文学者の発言である。

命じられてもいないのに、幕府の意向を付度（そんたく）して藩校に朱子学者を用いる藩もあったという。付度はあらゆるところで起こる。 (2017年6月)

6月最終回で「付度（そんたく）」について触れた。寛政異学の禁を発令した幕府の意向を付度して藩校に朱子学者を用いる藩もあった、と。(中略) そこでとりわけ上下関係の厳しい武家では、上を付度し下に付度させる社会が出来上がっていたと思われる。(同、8月) 語の用法はこのコラムの文章でよく示されている。上を付度し下に付度させる社会という、それを付度社会と断じ、ここで知るところは、上が下を付度する、そして、上を付度し、下に付度させる社会の行いとして、付度する行為者が儒学を実行する、実行させることで、支配構造が二重になるということである。双方向で支配者が支配する社会になることにあったと述べている。

このように、漢語の流行現象がどうして、どのように日本的であるかととらえると、その理由は、漢語を言葉として学ぶことから、そこに現れたことを実学として行うことになることとみられることである。王の道が人の道である、庶民の心得である。そして、マスメディアの解釈はほとんどすべてが、付度させるという方向であったということである。付度する行為者の心得を指摘すれば、社会のその双方向が理解できる。

## 6 メディアの詩経の解釈、孟子の説明による

流行語の現象に出された議論で、行政の長が付度するふるまいとして、それが政治であると指摘する議論はなかった。付度社会のままで近代になって、役人が行う付度として、この語の解釈が成立しているようである。ただ、詩経、孟子の用例によって、その付度する方向を指摘する議論が管見にあったので、ウェブサイトから引用<sup>13</sup>する。

君子・聖人の教えに従えば、他人に悪心あればこれを付度するのは易いこと。／日本の君子たる首相とファーストレディは、残念ながら「他人心有り 予之を付度す」とはいかず、狡い兎に見事騙されてしまったということか。／『詩経』によれば、付度すべきは官僚ではなく、安倍夫妻であったというお粗末。

(新明解言葉辞典・第3版 付度について付度する)

つまり、ここで使われている「付度」とは、ある行為において本人が気づかずにいた内心の動機を洞察するという意味で使われている。／何やら現代の精神分析みたいな感じだけれど、孟子がそうするのは、その人が、仁を行なおうとするよき人＝君子になろうと思わせるためだ。(中略)／ここには、ただいま日本で言われている「付度」の、目下の者が目上の者の「指示なき命令」を読み取って、それに「先回りして服従」してみせるなんて意味はまるでない。(付度 2017年3月30日 凱風通信)

## 7 意味の変遷 「付度する」

付度の用例について、goo 辞書、付度例文一覧<sup>14</sup>の5件を挙げる。参考に年代を示す。以下は、すべて青空文庫からの検索例である。明治、大正、昭和の年代である。福沢諭吉 1880 年代、用例3、用例2、和辻哲郎 1910 年代、用例5、宮本百合子 1930 年代、用例4、太宰治 1939 年代、用例1と見える。機械処理のため、一覧の引用はコンコーダンスの部分例になっている。

- ① 私は、彼の言葉をそのままに聞いているだけで彼の胸のうちをべつだん何も付度してはいないのだというところをすぐにも見せなければいけないと思ったから、「その小説は面白そうですね。書いてみたら？」 できるだけ余念なさそうな口調で言って、前方  
＜太宰治「ダス・ゲマイネ」＞
- ② 其心中の真面目をも付度せずして、容易に之に附するに敗徳の名を以てす、無理無法に非ずして何ぞや。百千年来蛮勇狼藉の遺風に籠絡せられて、僅に外面の平穩を装うと雖も、蛮風断じて永久の道に非ず。我輩は其所謂女子敗徳の由て来る所の原因を明にして、文明  
＜福沢諭吉「女大学評論」＞
- ③ 伐柯其則不遠 えをきるそののりとおからず、自心をもって他人を付度すべし。 人の心を鎮撫するの要は、その身を安からしむるにあり。安身は安心の術なり。ゆえに今、帝室の保護をもって、私学校を維持せしめてかねてまた学者を優待するの先例を示されたらば、世間にも次第に学問を貴  
＜福沢諭吉「学問の独立」＞
- ④ 仕事への自覚、誠実、情熱の不足をもって仕事はしておらぬ、そういう表現はうけがえぬ、と云われる場合、私はこういう場処で、広い意味では共通なものとして示されているあなたの作家としての公の言葉を、ああこうと付度する必要は感じません。 しかし  
＜宮本百合子「不必要な誠実論」＞
- ⑤ として非難するのは、あまりに自己の卑しい心事をもって他を付度し過ぎると思う。先生は博士制度が世間的にもまた学界のためにも非常に多くの弊害を伴う事実に対して怒りを感じた。その内にひそむ虚偽、不公平、私情などに対して正義の情熱の燃え上がるのを  
＜和辻哲郎「夏目先生の追憶」＞

時代はさがって 20 世紀になり、その使われ方の議論になる。上記の引用に合わせて日本語になった、漢字の言葉としての「付度」は、10 世紀の漢詩、16 世紀の辞書、それを受け入れている用法があった。議論の言葉にその使い方が、「新用法の歴史」<sup>15</sup>と現れた。このウェブサイト



の用例にあるように、政治の言葉となっていたのである。

## 8 現代流行の日本語となった「付度」

2017年に日本の社会現象となり、日本語の「付度」にさまざま、解釈を生み出した。その解説をする新書の本をあげて、付け加えておきたい。2017年11月、12月に相次いで3冊の新書本<sup>16</sup>が出版されいずれも政治、社会現象として事件を取り上げている。引用と目次などである。

三つの条件がそろった場合に付度と呼ぶ。①相手の指示がなくても ②相手の意向を推し量り ③先回りしてみたそうとする 片田珠美『付度社会ニッポン』角川新書(14ページ)  
付度症候群 1. 視野狭窄 2. 記憶障害 3. 調和にゆがみ 言葉のすり替え 事実の隠蔽 レッテル貼り 4. 過剰反応 5. 共依存 6. 付度機能不全

鎌田實『付度バカ』(小学館新書)

1 世の中を動かす「付度」の正体 2 「付度」と日本人 3 「付度」に気づかない上司、「付度」しないと怒る上司 4 「付度」できなくて困った部下、「付度」しすぎて迷惑な部下 5 「付度」を利用する人々 「付度」社会を生きるための処方箋  
榎本博明『「付度」の構造 空気を読みすぎる部下、責任を取らない上司』(イースト新書)  
すでに社会学者によって章を割いて書かれた、一書が1990年に上梓されていた。次のように言う。加藤秀俊『人生にとって組織とはなにか』<sup>17</sup>による「付度の論理」に見える。

その「付度の論理」は組織のなかに連鎖反応をおこしている。係りは係長を付度し、係長は課長を付度する。課長は課長で部長を付度し、部長は役員を付度する。(中略)だから、みながおたがいを付度しながら組織の中で生きている。 143—150 ページ

ここに述べる組織はわたしたちにとって、社縁人間というふうに捉えられている。その付度には、部下から上司への「こころにもない迎合」(144 ページ)と言い切っている。

## おわりに

「付度」は2017年に日本語に流行した漢語である。中国の古典籍から漢語として用例を検索し、日本語について、その語用を分析した。孟子の章句に詩経の引用からの語として見え、その後、用法は朱子学とともに移入されて、日本語には上を付度し下を付度する社会の組織語となった。近代以降に「付度」は二重支配を表す語となったが、1990年代、平成時代になるまでに語法「付度する」となり、メディアの議論は「付度」の語を流行現象としてとらえた。社会的に問題となる、「付度する」という語を、現代政治の用語の意味になる経緯として明らかにした。

漢語「付度」の語は時代が下がって、現代に政治用語に扱われたようであるが、そこには役人の用語として見られた。「付度」の字義を用例として解釈すると、すでに近代国家の組織に意味が変遷してその用法が現れていた。漢語文化の形成と、その移入を考え、「付度する」という日本語の用法に儒学の影響、孟子の解釈があったといえることができる。そして、社会学者の発言が述べるように、組織の論理が平成にあった。いまその時代が変わろうとしている。ひいて

はさらに、「付度」から「首相発言」というメディアの流行語<sup>18</sup>を、2018年に生み出したことは、歴史にある言葉の意味と用法に、そこに漢字文化教育の重要性を伺わせる。

付記：2018年9月21日、南京林業大学、プロジェクト「東アジア共同体創成における漢字と漢字文化教育」にて、講演『日本における漢語の流行現象—「付度」を例に一』を行った。

## 注

- 1 2017年12月、新語・流行語大賞を、ユーキャンによる選考で「インスタ映え」と「付度」が受賞している。
- 2 <https://seikidenron.jp/vocabulary/%E5%BF%96%E5%BA%A6>  
 > 森友学園問題では、当時理事長だった籠池泰典氏が会見で「土地取引のスピードが上がったのは“付度”があったから」だと語っている。安倍首相の妻である昭恵夫人の秘書が問い合わせたのをきっかけに、財務省の官僚たちが夫人の意向を“付度”したと主張している。  
<https://meaning.jp/posts/182>      2017年11月13日公開 2017年11月13日更新
- > この付度という言葉は2017年の国会やワイドショーにおいてかなり目立っていました。2017年前半に「森友学園問題」という政治問題が国会にて取り上げられました。この問題を巡った国会の進行中に、野党第一党の「民進党」の議員の方々が、安部総理に向かって「付度があったってことでしょう！」とこの言葉を口に出していました。
- 3 Chinese Text Project      <https://ctext.org/zhs> 中国哲学书电子化计划 简体字版
- 4 何宝年博士「中日同形词研究」、东南大学出版社、2012年12月1日発行。
- 5 「大辞林」は、三省堂版、238,000項目を収録し、徹底した現代語義優先方式に基づく解説と豊富な用例とある。紙媒体は、2006年10月27日刊行。  
 > 同様に【付度】（名）スル〔「付」も「度」もはかる意〕他人の気持ちをおしはかること。推察。「相手の心中を一する」  
 「デジタル大辞泉」は、小学館版、29万3,800語、2018年4月現在の収録、現代語の意味を用例とともに示している。  
 > 同様に【付度】〔名〕（スル）他人の心をおしはかること。また、おしはかって相手に配慮すること。「作家の意図を付度する」「得意先の意向を付度して取り計らう」  
 「デジタル大辞泉」は、小学館版、29万3,800語、2018年4月現在の収録、現代語の意味を用例とともに示している。
- 6 小学館「日本国語大辞典」 JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>  
 > 他人の心中やその考えなどを推しはかること。推量。推測。推察。  
 ＊菅家後集〔903頃〕叙意一百韻「春壺由造化付度委陶甄」  
 ＊東京新繁昌記〔1874～76〕〈服部誠一〉初・人力車「蓋し人の行く所を付度（〈注〉ハカル）して而して何れの帰りと唱ふ者は」

\* 文明論之概略〔1875〕 〈福沢諭吉〉 二・四「他人の心を付度す可らざるは固より論を俟たず」

\* 浮雲〔1887～89〕 〈二葉亭四迷〉 一・一一「文三の感情、思想を付度し得ないのも勿論の事では有るが」

\* 近代絵画〔1954～58〕 〈小林秀雄〉 ピカソ「ピカソの真意を付度（ソントク）しようとする」と

\* 詩経 - 小雅・巧言「他人有心、予付度之」

なお、辞書項目「付度」の読み、「じゅんど」という項目は次である。

> [名] (「じゅん」は「付」の呉音) 他人の心をおしはかること。そんたく。

\* 文明本節用集〔室町中〕「付度 シュント 推量義也」

## 7 <https://digitalsinology.org/ja/wiki/中国哲学書電子化計画>

> 中国哲学書電子化計画 (CTP; 中國哲學書電子化計劃) とはアクセスが公開された デジタルライブラリー であり、複写機能、閲覧機能、および early Chinese texts の検索機能などの幅広い機能を提供しています。本システムはアクセスが容易であり、かつ的確な幅広い文献の提供を目的としており、中でも特に中国哲学と関連した文献を中心に提供しています。本サイトはインターネット上において最大であり、かつ的確な中国古典哲学の文献庫として認められており、同時に中国古典文献の研究において最も有用な文献庫の一つとされています。

Application Programming Interface (API)などの外部ツールとリンクした多様な機能を用いることで、本システムでは中国古典文献の幅広いデジタル分析を容易にします。 CTP API という挿入システム plugin system を用いているため、中国哲学書電子化計画は、 Text Tools、TextRef、そして MARKUS を含めた他の数個のシステムと相互に互換性を持っています。

サイトの内容

サイト上の文献は先秦と漢の文献と、漢より後の文献に分けられており、前者は school of thought、後者は dynasty によって分類されています。先秦と漢の文献のデータベースには 5 百万字超え、漢より後の文献は 2000 万字ものデータがあり、編集が公開されている wiki セクションには 5 億字超えのデータが存在しています。多くの文献は英語と現代中国語の翻訳が付いており、比較を行いやすいように、原文と章ごと、文ごとに対応しています。こうすることで、本システムが中国語の知識があまりない学生や利用者にとっても役にたつようにしています。また、一つの文献に対して複数の解釈・翻案が利用可能な文献も多く存在し、それぞれ特定の歴史的な版の抄写が添付されています(歴史的な版のイメージ図とリンクしていることもあります)。

## 8 <https://ctext.org/ancient-classics/zh?searchu> 付度

> 《經典文獻》相關資源 《詩經》相關討論 [西周 (公元前 1046 年 - 公元前 771 年)]

提到《詩經》的書籍 電子圖書館 資料來源 相關資源 [又名：《詩》]

9 <https://ctext.org/book-of-poetry/qiao-yan/zhs>

> 诗经 来源：朱熹《诗集传》艺文印书馆，民国 63 年

《小雅》 《小旻之什》 《巧言》 巧言：

奕奕寝庙、君子作之。秩秩大猷、聖人莫之。他人有心、予忖度之。躍躍鳬兔、遇犬獲之。

10 <https://ctext.org/dictionary.pl?if=gb&id=15779&remap=gb>

> 中国哲学书电子化计划 简体字版 经典文献 -> 诗经 -> 小雅 -> 小旻之什 -> 巧言

> 原典出处

《孟子·梁惠王上》：王说曰：“《诗》云：‘他人有心，予忖度之。’”

《诗经·巧言》：他人有心、予忖度之。

《春秋繁露·玉杯》：且吾语质有本，《诗》云：“他人有心，予忖度之。”显示全文

《韩诗外传·卷四》：《诗》曰：“他人有心，予忖度之。”

《新序·善谋》：他人有心，予忖度之。

《中论·佚文》：至乎显宗，圣德钦明，深照孝文一时之制，又惟先王之礼不可以久违，是以世祖祖崩，则斩衰三年，孝明既没，朝之大臣徒以己之私意忖度嗣君之必贪速除也，检之以太宗遗诏，不惟孝子之心，

哀慕未歇，故令圣王之迹，陵迟而莫遵。

《新语·道基》：故圣人怀仁仗义，分明纤微，忖度天地，危而不倾，佚而不乱者，仁义之所治也。

《史记·春申君列传》：他人有心，余忖度之

《战国策》：《诗》：‘他人有心，予忖度之。’

《汉书·律历志上》：忖为十八，易十有八变之象也。

《后汉书》：是以损弃翰墨，一无所酬，亦冀遥忖褊心，粗识鄙性。

《说文解字·心部》：忖：度也。

《释名·释言语》：凡有所司捕，必静思，忖亦然也。

《抱朴子·论仙》：俗人贪荣好利，汲汲名利，以己之心，远忖昔人，乃复不信古者有逃帝王之禅授，薄卿相之贵任，巢许之辈，老莱庄周之徒，以为不然也。

《水经注·灋水》：寻其名状，忖理为非。

《三国志·武帝纪》：或者人见孤强盛，又性不信天命之事，恐私心相评，言有不逊之志，妄相忖度，每用耿耿。

《群书治要·中论》：莫之分理，至乎显宗，圣德钦明，深照孝文一时之制，又惟先王之礼，不可以久违，是以世祖祖崩，则斩衰三年，孝明既没，朝之大臣徒以己之私意，忖度嗣君之必贪速除也。

《艺文类聚·雾》：《梁伏挺行舟值早雾诗》曰：水雾杂山烟，冥冥见晓天，听猿方忖岫，闻濑始知川，渔人惑隩浦，行舟迷泝沿，日中氛霭尽，空水共澄鲜。

《四书章句集注》:其所以必远庖厨者,亦以预养是心,而广为仁之术也王说曰:“诗云:‘他人有心,予忖度之。’”

《论语注疏·里仁》:恕,谓忖已度物也。

《西游记》:菩萨低头思忖

《三国演义》:操暗忖曰:“此贼合死!”

《金瓶梅》:知县看了武松这般模样,心中自忖道:“不恁地,怎打得这个猛虎!”

《封神演义》:我看见生身母亲受此惨酷之刑,那姜环跪在前面对词,那时心甚焦躁,不曾思忖,将姜环杀了。

《广韵·忖》:忖:思也。

《太平御览·渭》:水经注》曰:渭水中旧有忖留神相。

《太平广记·何奎》:患者归视功德堂内,本无他物,忖思久之,老母曰

《朱子语类·小弁》:他人有心,予忖度之。

《红楼梦》:空空道人听如此说,思忖半晌,将这《石头记》再检阅一遍。

《全唐诗》:哀笳慢指董家本,姜宣得之妙思忖。

《康熙字典·十二》:又《集韵》取本切,音忖。

《儒林外史》:口里答应,心里自忖说:“我家二位老爷也可笑,多少大官大府来拜往,还怕不够相与,没来由,老远的路来寻这样混账人家去做甚么?”

# 11 <https://ctext.org/mengzi/liang-hui-wang-i/zhs>

>《孟子·梁惠王上》:他人有心,予忖度之。

梁惠王上:

齐宣王问曰:“齐桓、晋文之事可得闻乎?”

孟子对曰:“仲尼之徒无道桓、文之事者,是以后世无传焉。臣未之闻也。无以,则王乎?”

曰:“德何如,则可以王矣?”

曰:“保民而王,莫之能御也。”

曰:“若寡人者,可以保民乎哉?”

曰:“可。”

曰:“何由知吾可也?”

曰:“臣闻之胡龀曰,王坐于堂上,有牵牛而过堂下者,王见之,曰:‘牛何之?’对曰:‘将以衅钟。’王曰:‘舍之!吾不忍其觳觫,若无罪而就死地。’对曰:‘然则废衅钟与?’曰:‘何可废也?以羊易之!’不识有诸?”

曰:“有之。”

曰:“是心足以王矣。百姓皆以王为爱也,臣固知王的不忍也。”

王曰:“然。诚有百姓者。齐国虽褊小,吾何爱一牛?即不忍其觳觫,若无罪而就死地,故以羊易之也。”

曰:“王无异于百姓之以王为爱也。以小易大,彼恶知之?王若隐其无罪而就死地,则牛羊何

擇焉？”

王笑曰：“是誠何心哉？我非愛其財。而易之以羊也，宜乎百姓之謂我愛也。”

曰：“無傷也，是乃仁術也，見牛未見羊也。君子之于禽獸也，見其生，不忍見其死；聞其聲，不忍食其肉。是以君子遠庖廚也。”

王説曰：“《詩》云：‘他人有心，予忖度之。’夫子之謂也。夫我乃行之，反而求之，不得吾心。夫子言之，于我心有戚戚焉。此心之所以合于王者，何也？”

なお、本文に引用した繁体字、および次の読み下しは、次による。孟子/梁惠王上

<https://ja.wikisource.org/wiki/%E5%AD%A9%E5%AD%A0%E6%A2%81%E6%83%A0%E7%8E%8B%E4%B8%A> ルビは（ ）に示す。

- > 齊（せい）の宣王（せんわう）問（と）うて曰（いは）く、齊桓（せいくわん）・晉文（しんぶん）の事（こと）、聞（き）くを得（う）べきか。孟子（まうし）對（こた）へて曰く、  
「仲尼（ちうじ）の徒（と）は、桓文（くわんぶん）の事（こと）を道（い）ふ者（もの）なし。是（これ）を以（もつ）て後世（こうせい）傳（つた）ふるなし。臣（しん）未（いま）だ之（これ）を聞（き）かざるなり。以（や）むなくんば則（すなは）ち王（わう）か。曰（いは）く、德（とく）何如（いか）なれば、則（すなは）ち以て王（わう）たる可（べき）。曰く、民（たみ）を保（やす）んじて王（わう）たらば、之（これ）を能（よ）く禦（ふせ）ぐ莫（な）きなり。曰く、寡人（かじん）の若（ごと）き者（もの）以て民（たみ）を保（やす）んず可（べき）か。曰く、可（か）。曰く、何（なに）に由（よ）りて吾（わ）が可（か）なるを知（し）るや。曰く、臣（しん）之（これ）を胡齟（ここつ）に聞（き）く、曰く、王堂（わうだう）上（じやう）に坐（いま）す、牛（うし）を牽（ひ）いて堂下（だうか）を過（す）ぐる者あり、王（わう）之（これ）を見（み）て曰く、牛（うし）何（いづ）くに之（ゆ）く。對（こた）へて曰く、將に以て鐘（かね）に鬻（ちぬ）らんとすと。王（わう）曰く、之（これ）を舍（お）け。吾（われ）其（そ）の穀觿（こくそく）として、罪（つみ）無（な）くして死地（しち）に就（つ）くが若（ごと）くなるに忍（しの）びず。對（こた）へて曰く、然（しか）らば則（すなは）ち鐘（かね）に鬻（ちぬ）るを廢（はい）せんか。曰く、何（なん）ぞ廢（はい）す可（べき）けん。羊（ひつじ）を以て、之（これ）に易（か）へよと。識（し）らず諸（これ）れありや。曰く、之（これ）有（あ）り。曰く、是（こ）の心（こころ）以て王（わう）たるに足（た）る。百姓（ひやくせい）皆（みな）王（わう）を以て愛（を）しむと爲（な）すなり。臣（しん）は固（もと）より王（わう）の忍（しの）びざるを知（し）る。王（わう）曰く、然（しか）り。誠（まこと）に百姓（ひやくせい）なる者（もの）あり。齊國（せいこく）編小（へんせう）と雖（いへど）も、吾（われ）何（なん）ぞ一牛（ぎう）を愛（を）しまんや。即（すなは）ち其（その）の穀觿（こくそく）として罪（つみ）なくして死地（しち）に就（つ）くが若（ごと）くなるに忍（しの）びず。故（ゆゑ）に羊（ひつじ）を以て之（これ）に易（か）ふるなり。曰く、王（わう）百姓（ひやくせい）の王（わう）を以て愛（を）しむと爲（な）すを異（あ



や) しむ無 (な) かれ。小 (せう) を以て大 (だい) に易 (か) ふ、彼 (か) れ惡 (いつ) くんぞ之 (これ) を知 (し) らん。王 (わう) 若 (も) し其 (その) の罪 (つみ) 無 (な) くして死地 (しち) に就 (つ) くを隱 (いた) まば、則 (すなは) ち牛羊 (ぎうやう) 何 (なん) ぞ擇 (えら) ばん。王 (わう) 笑 (わら) ひて曰く、是 (こ) れ誠 (まこと) に何 (なん) の心 (こころ) ぞや。我 (われ) 其 (その) 財 (ざい) を愛 (をし) んで、而 (しか) して之 (これ) に易 (か) ふるに羊 (ひつじ) を以てするに非 (あら) ざるなり。宜 (むべ) なるかな、百姓 (せい) の我 (われ) を愛 (を) しむと謂 (い) ふや。曰く、傷 (いた) むなきなり。是 (こ) れ乃 (すなは) ち仁 (じん) の術 (じゆつ) なり。牛 (うし) を見 (み) て未だ羊 (ひつじ) を見 (み) ざればなり。君子 (くらし) の禽獸 (きんじふ) に於けるや、其 (その) 生 (せい) を見 (み) ては、其 (その) 死 (し) を見 (み) るに忍 (しの) びず。其 (その) 聲 (こゑ) を聞 (き) けば其 (その) 肉 (にく) を食 (くら) ふに忍 (しの) びず。是 (ここ) を以て君子 (くんし) は庖廚 (はうちふ) を遠 (とほ) ざくるなり。

王 (わう) の説 (よろこ) んで曰く、詩 (し) に云ふ、他人 (たにん) 心 (こころ) 有 (あ) り、予 (われ) 之 (これ) を付度 (そんたく) すとは、夫子 (ふうし) の謂 (い) ひなり。夫 (そ) れ我 (われ) 乃 (すなは) ち之 (これ) を行 (おこな) ひ、反 (かえ) つて之 (これ) を求 (もとめ) めえ、吾 (わ) が心 (こころ) に得 (え) ず。夫子 (ふうし) 之 (これ) を言 (い) ひ、我 (わ) が心 (こころ) に於 (お) いて戚戚 (せきせき) 焉 (えん) たる有 (あ) り。此 (こ) の心 (こころ) の王 (わう) に合 (あ) ふ所以 (ゆゑん) の者 (もの) は、何 (なん) ぞや。(下略)

- 12 田中優子の江戸から見ると：付度社会 - 毎日新聞 2018年6月27日、8月1日

<https://mainichi.jp/articles/20180801/dde/012/070/021000c>

- 13 新明解言葉辞典・第3版 付度について付度する運営者は、七会静さん 2017年4月18日  
shinmeikai.blog.fc2.com/blog-entry-940.html

付度 2017年3月30日 凱風通信 <http://yagiko.gaihusya.com/yagiko/?p=7259>

このサイトは孟子についての記事である。

凱風通信 (以下の引用にあたって、改行を詰めた——筆者)

- > 王説 (よろこ) びて曰く、／詩に／他人有心、予付度之／《他人に心有りて、予 (われ) これを付 (お) し度 (はか) る》／と云えるは、夫子の謂なり。／われ乃 (すなわ) ちこれを行ない、反 (かえり) みてこれを求むれども、わが心に得ず。／夫子これを言いて、わが心に戚戚焉 (おもいあたること) あり。 — 『孟子』 —

昨日、久しぶりに吉田松陰の「講孟余話」の開いたので、今日はそのかたわらに「孟子」も置いて読み進めていたら、思いがけず今流行りの「付度」という語が出て来たのでおもしろかった。／そして、その「付度」は、今言われている「付度」とまるで意味がちがっていた。／この言葉が出てくる「梁恵王篇」の七に出てくる話というのはこうである。／登場人物は孟子と斉の宣王。／どうやら、古代の中国においては、新しい鐘を铸るとき、それを神

聖なものにするために牛を殺してその血を鐘に注ぐ儀式があったらしい。／さて、齊にやって来た孟子が、宣王に向かって、王はかつてその犠牲とされる牛がおびえて殺されに行くのを目にして、その牛を羊に変えよと命じたという話をきいたが、そんなことがほんとにありましたか、と問うのである。／いかにも、そんなことがあった、と答える王に、孟子は、／「それこそあなたが王者に成れる証しだ」／と言うのである。／どういうことかと、思っている宣王に孟子は言うのである。／「でもね、百姓たちは王のことをけちんぼだと言っていますよ」／「なにをいうか」／と宣王。／「齊は小なりといえども、なんで牛一頭を惜しんだりしようか。／わしはただ、その牛がおどおどして罪もないのに死地に赴くのを見るに忍びず、羊にかえさせたのだ」／すると、孟子／「いやいや、百姓たちの言うことにも一理ありますよ。／だって、罪もなく殺されに行くのがかわいそうなら、牛も羊も変わらないではありませんか」／「なるほどそうか。／いったいわしは何を考えていたのやら。／百姓がわしをけちんぼだと言うのももっともなことだわい」／と王は苦笑する。／すると孟子は言うのである。／「無傷也（傷むことなかれ）＝気になさいますな。／これこそ、「仁」に向かう道なのです。／なぜなら、あなたさまは牛の様子はご覧になられていたけれど、羊の方はご覧になれなかったのですから。／君子というものは、鳥でも獣でも、その生きているようすを見ていればとても殺されるのは見てられないし、その時のかなしげな鳴き声を聞いては、その肉を食べる気にはなれないものです。／だからこそ、君子は調理場の近くに居間は作らないものなのです」／言われた宣王は喜んで、冒頭に引用した部分が出てくる。／「詩経に《他人の心に思うことがあれば、私はそれを忖度する》という言葉があるが、まさに先生こそがそれですな。／先生の言葉をきくと、ひしひしと自分の心に思い当たる」／と言うんですな。

14 <https://dictionary.goo.ne.jp/jn/132075/example/m0u/>

<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/132075/example/m0u/>

①「読売新聞」1937（昭和12）年6月9日号 ②「時事新報」時事新報社 1899（明治32）年連載 ③「時事新報」時事新報社 1883（明治16）年1月20日～2月5日発行 ④「読売新聞」1937（昭和12）年6月9日号 ⑤「新小説」1917（大正6）年1月臨時号

15 「忖度（そんたく）」の新用法の歴史について - メモ 2013.10.10～ 意味の変遷をまとめている。このサイトの引用例は近代になって表れた「忖度」を跡付けている。ブロガーの周到な調査を示す。また、ルビ付き「忖度」の発見があり、用例とともに、ここに記しておきたい。

> 1896年 餘（あま）り忖度（おもひやり）が無（なさ）過ぎた。（尾崎紅葉『青葡萄』春陽堂 p.43）

<http://kumiyama-memo.hatenablog.com/entry/2017/12/30/223800>

> 太甚しきに至ると云ふと漫りに上官の意中を忖度して其意に迎合することに汲々たるものもあるかも知れぬ、 1908

／ 自分の生活を極度に節約壓縮して、先生のきもちを巧みに付度し、うまくさきまはりして愛くるしい笑顔をし、忠實な犬となりければ學校優等生といふものになる。 1931

／ 上の方の直接の意志を付度して、それに脅え且つおべつかる小吏根性が、こんな淺薄な國粹主義で、兒童の頭を混亂させるのではないかと。 1937

／ それが政治的であるという、むしろ極めて權力者の意志を付度した政治的発言によって封じられようとしている。 1952

／ あえて今までの案に県が付度を加えて、これはまずいというような考えは持つておりません。 1958

／ 占領軍統治時代のGHQの意向とかというものを、一歩先回りして付度(そんたく)し、これを更に上回るような忠勤ぶりを競うという、 1964

／ 申請者としては、權力の意向をつとめて付度し、不必要に広くこれに迎合することを余儀なくされる。 1966 /

もちろん、上位者の考え方を付度する配慮は、補佐する者の当然のつとめであるが、おもねり的な付度がまずはたらくということになっては問題である。 1970 /

責任ある地位に就いたからといって、意見を言う段階では上役の意向など付度(そんたく)するな。 1979 /

何か言われたときに、上の気持ちを付度(そんたく)するといけません。 1983

／ 余談子は、この言葉〔「付度」〕が大好きだ。 1983

／ トップが無責任になっていく一つの大きな背景を成しているのは「付度社会」です。付度社会というのは、トップが言葉に出して明言しない。アーとか、ウーとか、エーとか言うだけです。 1988

／ もともとは「他人のことを心配し真心から」付度したのですが、どうも現在では「おせっかいな心配」という意味にも使われているようです。 1988

／ 付度、というのはひとことでいえば他人の気持ちや願望を推量して、それにあわせて行動することを意味する。 1990

なお、上記サイトが言及する次の引用とその説明は、ウェブサイトに見る重要な記事である。

## > 1990 年

当用漢字にない文字をつかつてもうしわけないが、付度(そんたくールビ)という問題をつぎにとりあげてみよう。付度、というのはひとことでいえば他人の気持ちや願望を推量して、それにあわせて行動することを意味する。(加藤秀俊『人生にとって組織とはなにか』中央公論社 p. 143)

※この文章の後に、「付度」の具体例として、稟議書作成のケース(上述の鈴木初郎氏の文章と同様の内容)などが挙げられていました。2018年1月2日追記: このくだりは、ヤシロタケツグさんのブログで既に取り上げられていました。

そのブログは、次である。

ヤシロぶ デザイン芸人&ひとり遊び日本代表、ヤシロタケツグの「ヒマの過ごし方」

<https://www.poc39.com/archives/5359> 平成の「シン・付度」論(1) 【読書メモ】

- 16 2017年(平成29年)片田珠美『付度社会ニッポン』(角川新書) 11月10日  
2017年(平成29年)鎌田 實『付度バカ』(小学館新書) 12月4日  
2017年(平成29年)榎本博明『「付度」の構造 空気を読みすぎる部下、責任を取らない上司』(イースト新書) 12月15日
- 17 1990年(平成2年)加藤秀俊『人生にとって組織とはなにか』(中公新書)  
思いやりという側面を、不本意であっても行うこととして説明する。平成の初めに、この時期、時代がどのように動いていたかということを付度の論理で思い合わせると、政治と組織とりわけ企業に起こる現象があったのである。
- 18 ユーキャン 2018 新語・流行語の候補に「首相発言」があった。ちなみに大賞は「そだねー」である。

引用 URL は、2018 年 8 月 10 日、2019 年 1 月 20 日にすべて閲覧し、確認した。

電子情報は改変可能な内容として記録する。Information に informed という datum また deta は、文字記録の紙媒体にあった歴史を考え直させることになるので、本稿の引用は試行である。

## 参考資料

ちよい虹 20170323

籠池理事長証人喚問国会中継 (ほぼ) 全文文字起こし&重要事項まとめ

[http://tyoiniji.hateblo.jp/entry/2017/03/23/%E7%B1%A0%E6%B1%A0%E7%90%86%E4%BA%8B%E9%95%B7%E8%A8%BC%E4%BA%BA%E5%96%9A%E5%95%8F\\_%E6%96%87%E5%AD%97%E8%B5%B7%E3%81%93%E3%81%97%E3%80%90%E4%BB%AE%E3%80%91](http://tyoiniji.hateblo.jp/entry/2017/03/23/%E7%B1%A0%E6%B1%A0%E7%90%86%E4%BA%8B%E9%95%B7%E8%A8%BC%E4%BA%BA%E5%96%9A%E5%95%8F_%E6%96%87%E5%AD%97%E8%B5%B7%E3%81%93%E3%81%97%E3%80%90%E4%BB%AE%E3%80%91)

[グーグル検索] 20190122 閲覧

籠池理事長証人喚問国会中継 (ほぼ) 全文文字起こし&重要事項まとめ ...

[http://tyoiniji.hateblo.jp/entry/2017/03/23/籠池理事長証人喚問\\_文字起こし【仮】](http://tyoiniji.hateblo.jp/entry/2017/03/23/籠池理事長証人喚問_文字起こし【仮】)

2017/03/23 - 気になっていたので、ラジオを聴くついでに書き起こしてみました。 ... 事実は小説よりも奇なり」との籠池氏発言が印象に残りました・・・ ... 籠池理事長証人喚問国会中継 (ほぼ) 全文文字起こし&重要事項まとめ .... 籠 「それに関しては刑事訴追を受ける可能性があるので絶対証言しません」 ... 籠 「違います。7億5千万円は集まっています。 ... 付度が働いても仕方ない状況。 ..... 酒井さんは森友の担当弁護しを辞めたと勝手に理事長のいうことと食い違うことをおっしゃっている、これはどう思われますか？